

アカトンボがよくいたたんぼ  
(岡山市原の棚田)

## 「たんぼの話」2 「アカトンボ」

岡山市 十川 巡一

秋になるとたんぼやたんぼのまわりで見ることの出来るアカトンボの仲間にはアキアカネ・ナツアカネ・ノシメトンボ・マユタテアカネなどですが、ため池に行くと、リスアカネ・コノシメトンボ・ネキトンボがよく見られました。マユタテアカネは池にもいます。

ナツアカネとノシメトンボは連結打空産卵といって稲の上からパラパラと卵を産み落とします。

マユタテアカネは、やねみぞやあぜの水際、池の水際などの泥の中に連結して卵を産み付けます。

アキアカネはたんぼに稲がある時期には産卵をしません。稲刈りが終わるとやねみぞや、たんぼの中の水たまりに連結をして打水産卵をします。

昭和38年原に引っ越してきた頃、家の傍のたんぼの上でアキアカネが沢山飛んでいるなと思っていましたが、平成7年にトンボを調べ始めて、初めてそのトンボがアキアカネではなく、ウスバキトンボと知りました。

昭和38年頃は人の手で稲を刈っていたのでそこから人がつけた足跡の水たまりが出来、そして田植え前までそのまま放置するか、レンゲの種をまきます。

昭和50年頃から機械で刈り取りが始まりました。あまり足跡も残りません。ほとんど平らな状態です。そのため水たまりも少ししかありません。水がたまって、そう長くは持ちません。気にしながら見ているといつの間にか水が無くなっています。たんぼにアキアカネの産卵場所が無くなりました。

私が住んでいる近くにはアキアカネが産卵できるような湿原もありません。

アキアカネの卵は四週間以上水に浸かっていたら、卵で越冬し田植えの時、水が入るとふ化し、元気なヤゴになることが出来ます。もし水に浸かっている日数が短いと、卵は死んでしまいます。

私も平成11年頃からアキアカネに出会っていません！あまり山ぎわのたんぼに行っていないせいかもしれませんが、アキアカネはどこにいったのでしょうか？

